

研究結果

本研究が拙稿「高度経済成長期における中国企業のトップマネジメントの二十四時間——「時間の投入」から見る中国企業のトップマネジメントの役割——」（『国際ビジネス研究学会年報2008年』に掲載）に基づいて、日中経営比較に推進してきたものである。

本研究の結果について、まず第一に、企業経営者（トップマネジメント）の役割や「時間投入」に関する研究文献をレビューすると、1951年に行ったSwedenのUppsala大学のSune Carlsson教授の実証研究がそのもっとも先行的な研究であろうと見える。Sune Carlsson (1951)は9人のスウェーデン企業のトップマネジメントと1名のフランス企業のマネジャーを対象に観察法を用いて企業のトップマネジメントの行動の特徴をまとめていた。それ以来、欧米の研究者はトップマネジメントの役割や時間投入について次々と研究成果を出してきたが、ほぼ観察法や仕事日記などの研究方法に限り、アンケートやインタビューを通じて研究するものがJohn P. Kotter (1982)の1つに過ぎなかったのである。また欧米企業の経営環境と文化に限られた結論だけをしていて、日本や中国にはそのテーマに関する研究があまりに少なかったのであります。

第二に、従来の経営者の役割に関する研究が一般的に研究者の主観的判断によって行われることである。それに対して、「投入時間」というデータを分析する視点から経営者の役割を判断するのは新しいアプローチの方法といえる。すなわち、経営者がトップマネジメントとしての役割を果たすかどうかは、彼らが毎日経営者として有効な時間を経営の為にいくら投入したかによって判断すべきであり、そして、その有効な時間の投入によって、彼らがどのような役割を果たしているのかを分析すべきだ、ということである。

第三に、実務的立場から見れば、市場競争の先頭に立って、世界的金融危機が深刻化になってきた今日の経営環境において、日中両国の経営者がどのように「時間投入」をしているのか、どういう役割を果たしているのか、その特徴がどう違うのか、本研究の調査結果が出てきた。アンケートやインタビューを通じて、本研究が下記の四点が発見し証明されたと考えられる。

- 1、 日中両国のトップマネジメントの平均仕事時間は、10-12時間が全体的に見ればその一般的であり、その差があまり見えられなかったのである。すなわち、日中両国のトップマネジメントの長時間働き、精勤ぶりが目立っているということである。
- 2、 戦略管理は中国企業のトップマネジメントが最も重要視された仕事である。すなわち、経営戦略策定を仕事の中心と位置つけられて、急激な企業競争や市場環境、政府政策などの変化を即時に応じるのが中国企業のトップマネジメントにとって一番たいへんな仕事であるとかんがえられる。それにたいして、日本企業のトップマネジメントは仕事の重点が部下の指導、激励、および社内会議の出席などに置いているのである。特に、従来の観点と違って、日本企業のトップマネジメントが中国企業のトップマネジメントと同じく、社内会議を重視し、様々な会議によって経営指令や情報を発布、受け取るのになって、外部関係者と情報を交換し、部下を指導激励している。
- 3、 時間の投入から見た中国企業のトップマネジメントの役割は、戦略策定者、戦略経営者 (Strategic manager)、経営リーダー、指導者 (leader)、従業員激励専門家 (motivator)、そして社会活動家 (Social communicator and actor) などという順番になっているのに対して、日本企業のトップマネジメントの役割は、経営リーダー、指導者 (leader)、従業員激励専門家 (motivator)、戦略策定者、戦略経営者 (Strategic manager)、そして社会活動家 (Social communicator and actor) などという順番になっている。
- 4、 日中企業のトップマネジメントの時間投入や役割の異なった原因について、要するに、所在国の経済発展段階や企業の発展段階、政治や法律や市場など企業を取り巻く経営環境、そして企業理念と目標などに関連させる。

本研究は企業調査と国際比較研究によって、時間投入の視点から見た日中企業経営者役割の異同を明らかにすると同時に、日中企業の競争力とくに経営力の源泉を少しでも解明され、企業経営者を含めるコア人的資源の能力開発、リーダーシップ発揮、経営力や競争力の再構築などに示唆をした。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

Cultural Ecology of Entrepreneurs' Growth: Contrasts between China and other Cultures, Lin Xinqi, 日本労務学会第40回大会、2010年8月1日午前、日本：神戸大学；

2010-02-06

A comparative research on the roles of enterprises' top-management between China and Japan from the viewpoint of working-time's devotion : Cases study, Lin Xinqi, HRM Network Formation Workshop, 2010年2月6日、韓国：Korea University；

Transition of economic development mode calls for human resource management innovation, Lin Xinqi, 中国人文社会科学論壇第10回大会、2010年6月13日、北京：中国人民大学；

Human Resource Management and Development in China since 1979 to 2009: Path and Trend, LIN Xinqi, International Forum for Leadership, Organization and Human Resource Management 2009, 中国：北京交通大学。

A comparative research on the roles of enterprises' top-management between China and Japan from the viewpoint of working-time's devotion, Lin Xinqi, HRM Network Formation Workshop, 2011年10月15日、北京：中国人民大学。

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

Cultural Ecology of Entrepreneurs' Growth: Contrasts between China and other Cultures、林新奇、日本労務学会第40回全国大会研究報告論集、2010。

アジア地域における国際視野をもつ経営者の養成に関する研究訓練について、林新奇等、国際学術動態、2010年第1期。

日中企業人的資源のパフォーマンス。マネジメントに関する比較研究、林新奇等、人力資源管理、2010年第5期。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

パフォーマンス。マネジメント、林新奇、東北財経大学出版社、2010年3月

経営者の役割とリーダーシップ、林新奇、復旦大学出版社、2011年9月。